

A photograph of three young children, likely of East Asian descent, sitting on a sandy surface outdoors. They are all shirtless and wearing shorts, and their faces and hands are covered in mud. The child on the left is laughing with their mouth open, showing teeth. The child in the middle is also laughing, with their mouth wide open. The child on the right is smiling and looking towards the camera. In the background, there are white storage containers or trailers. The scene is brightly lit, suggesting a sunny day.

- 
- こどもが
未来をかなう
PROJECT
- 只今全国展開中

NO.174
2015⑦
Summer

理事長新年挨拶

(一社)静岡県私立幼稚園振興協会

理事長

相田 芳久



新制度がスタートして早くも4ヶ月が過ぎました。県内においては従前からの認定こども園も含めて34ヶ園が新制度に移行しました。また地域の状況やニーズに応じて小規模保育や一時預かり事業を展開、または計画している園も出てきております。

新制度施行に伴い、保護者や地域社会にとつては、ただでさえわかりにくかった幼児教育施設間の違いが、さらに難解になっている感はありません。すでに動き始めた制度の中で、それぞれの施設がより良く変化し、さらに価値を高めて社会の負託に応える姿勢を打ち出していくことが必要であろうと思います。

本年は日本の幼児教育にとって大変重要な1年となりそうです。学校教育法の第1条でしっかりとその意義を示された幼稚園ではありますが、その財源を保障するべき確固たる法律を持たなかったがゆえに、新制度においても子育て支援を謳う福祉行政の陰に埋もれてしまいました。しかしながら、欧米主要国間では、就学前幼児教育にウェイトを置き、しっかりとした理念構築と財政措置を行うことはもはや当たり前の流れとなっており、このような状況を鑑み、全日本私立幼

稚園連合会では自民党議連・幼児教育部会に問題提起し、党内文教小委員会とともに現在『幼児教育振興法(仮称)』を議員立法にて成立させるべく、さまざまな協議を精力的に行っています。

3歳から5歳の幼児教育が小・中学校義務教育と同等に位置づけられ、確実な財源措置をもって国民の子弟一人ひとりに等しく充実した幼児教育を提供することは私たち私立幼稚園関係者にとつて積年の願いでした。この実現により、幼稚園教育を中心とする幼児教育の益々の充実が図られることになり、教職員の就労環境改善も含めて、その資質向上に向けて大きな流れが起るようになるでしょう。

私たちには今後、これらの動きを念頭に置き、普段の教育内容、実践の充実を目指すとともに、就園前や就学後の子どもの育ちをより深く理解し、それぞれに強固な連携を図ることが求められてきます。

それぞれの園においてこれらを踏まえ、子ども・保護者・教職員が一体、一丸となって『子どもの豊かな生活』作りのために精進していただくよう願っております。

幼児期からの地域における人づくり

静岡県私学振興課長

伏見 光博



4月1日に私学振興課長として着任しました伏見光博です。

日頃から、私も私学振興課の業務について、御理解、御協力をいただくとともに、県の様々な施策に御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

皆様とともに、私立幼稚園の振興に向けて邁進してまいりますので、よろしくお願い致します。

さて、本年4月より、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育てを総合的に推進するため、子ども・子育て支援新制度が施行されました。

地域創生、人口減少、人口流出など、様々な社会的課題が言われている中で、それらの解決の鍵となるのは「人づくり」と感じております。

子供のころから地域に愛着と関心を持ち、地域で自己実現を図るとともに、地域に貢献する人を多く育てることが必要であり、そのためには、幼児期から地域の実情に応じた質の高い学校教育を行うなど「社会総がかり・地域ぐるみ」で人材を育成していくことが重要であると考えます。

本県では平成26年度に私立幼稚園認可を受けていた238園のうち、新制度に移行

された園は34園、うち認定こども園への移行は30園でした。

新制度施行により皆様を取り巻く環境は大きく変化することと思いますが、県といたしましては、私立幼稚園の根幹を成す建学の精神の遵守、子どもにとつての最善の利益を第一とする皆様の思いを尊重し、幼稚園振興協会と協力して、より一層の支援を行ってまいりますと考えております。

また「子どもの命を守る」ことを第一に、私立幼稚園における園舎等の耐震化をより一層進めるための支援を行ってまいります。

幼稚園施設の耐震化率は、26年度末では95.3%(暫定値)であります。未耐震施設のある幼稚園につきましては、幼稚園ごと実施困難な要因は様々だと思いますが、どのような対応が図れるか一緒に検討してまいりたいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

今後とも、私学振興課の職員一同、皆様と意見交換を行いながら、私立幼稚園の振興、発展に真摯に取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第63回(一社)静岡県私立幼稚園振興協会定時総会
平成27年度 静岡県私立幼稚園協会定時総会

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会の第63回定時総会が、5月25日(月) ホテルセンチュリー静岡で107名の会員が出席し、静岡県文化・観光部長西田郁夫様、同総合教育局長鈴木一吉様、同私学振興課長伏見光博様をお迎えし盛大に開催されました。

総会は、相田芳久理事長の新制度がスタートした現状や幼児教育のさらなる充実を目指す熱意にみちた挨拶で始まり、まずはじめに、春の叙勲で瑞宝双光章を受賞された振興協会顧問 元静岡豊田幼稚園園長宮下ちづ子先生の紹介があり、引き続き、教育振興に多大な功績を残されている方々への表彰に移りました。県文化・観光部長西田郁夫様からは私立学校教育振興功勞知事表彰状が、また相田理事長からは理事長・設置者、園長永年勤続表彰状が授与され

ると、受賞者の功績に会場から盛大な拍手が送られました。この後、県知事のお祝辞を県文化・観光部長西田郁夫様が代読され、総会は議事に入りました。

議長となった相田理事長の進行で議事は進み、第1号議案「平成26年度事業報告及び財務状況報告」が原案どおり満場一致で可決されました。また報告事項として会員の退会について1園の退会の報告がありました。

■川勝平太静岡県知事の祝辞

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会第63回定時総会の開催に当たり、一言お祝申し上げます。

本日、多数の皆様のお出席のもと、このように盛大に総会が開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

本件の私立幼稚園教育の振興につきまして、日ごろより、私立幼稚園振興協会の役員の皆様をはじめ、関係の皆様方に多大なる御尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

また、永年にわたる私立幼稚園教育の発展への御尽力及びその御功績により、叙勲の栄に浴された宮下ちづ子先生をはじめ、栄えある表彰を受けられました皆様方には、心からお祝い申し上げますとともに、深く敬意を表する次第であります。

さて、富士山の世界文化遺産登録に続き、本県の富士山反射炉を含む明治日本の産業革



命遺産の登録が見込まれる見通しとなりました。

本県は、これらの世界的な文化遺産をはじめ、世界農業遺産である「茶草場農法」や無形文化遺産「和食」など様々な分野において「世界クラスの資源」に恵まれており、県内の子ども達が、これら「世界クラスの資源」に幼児期から触れることで、地域に愛着

と関心を持ち、地域に貢献できる人材が育成されていくものと思います。

幼稚園は子ども達が初めて出会う学校であります。皆様方が携わっておられる幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うものでありますことから、本県の恵まれた環境の中で、その充実を図ることは極めて重要であると考えております。

この4月から子ども・子育て支援新制度が施行されましたが、認定こども園、幼稚園と運営形態は様々となっても、皆様の建学の精神に沿ったそれぞれの教育方針に基づき、私学ならではの特色ある教育を実践され、県民の多様なニーズに幅広く応えていただきますようお願い申し上げます。

県といたしましても、皆様これまで以上に質の高い教育を提供できるよう、引き続き、私学教育の振興に努めてまいります。

結びに当たり、一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会並びに各私立幼稚園の益々の御発展と、御出席の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

■勲章受章者(教育功勞)

平成27年度 春の叙勲

瑞宝双光章

元静岡豊田幼稚園園長 宮下ちづ子
(現学校法人静岡豊田学園理事長)

平成27年度

私立学校教育振興功勞知事表彰受賞者

静岡聖母幼稚園園長 下村紀美子

梨花幼稚園園長 高瀬絹代

学校法人田中学園理事長

認定こども園みのる幼稚園園長 田中邦昌

日本平幼稚園園長 藤原通晴

伊東聖母幼稚園園長 マルシャン・ジヨフロア
(50音順)

平成27年度

永年勤続表彰受賞者(理事長・設置者、園長)

●勤続50年以上

学校法人浜松葵学園浜松葵幼稚園園長 島津美智子

●勤続40年以上

学校法人藤原学園 日本平幼稚園園長 藤原通晴

●勤続30年以上

学校法人清水花園学園理事長 八坂幼稚園園長 千葉一道理

学校法人無憂樹学園理事長 駅南幼稚園園長 朝元百

学校法人青葉学園理事長 青葉幼稚園園長 松下知弘

●勤続20年以上

学校法人静岡聖母園 古原聖母幼稚園園長 小林歌子

学校法人龍の子学園理事長 龍の子幼稚園園長 座光寺明

●勤続10年以上

学校法人静岡精華園 静岡精華幼稚園園長 幾田光男



合同研修会報告

平成27年6月4日(木)及び5日(金)、グランドホテル浜松において、県内全域の私立幼稚園から160名が出席し、平成27年度理事長・設置者・園長合同研修会が開催されました。トップマネジメントを担う理事長・設置者、園長等が一堂に会して、これからの幼稚園のありかた、地域に果たす役割などを考え、更なる資質向上を図るため、いくつかのテーマで各講師から講義を受けました。



研修1

『自然体験におけるリスクマネジメント及び対処方法について』

講師／日向崇昭氏
ひゅうかうたけあき

日向先生は、『事故は必ず起きる』そして、(予測できる事故)と(予測できない事故)の2種類の事故があることを話されました。

予測できる事故については、人為的・組織的・環境的エラーにより発生する。エラーを少なくする為には、その日の最初の出会いが大切。参加者の荷物のおき方・活動にあつた服装・身だしなみ・言葉づかい・表情・立居振る舞いを観察して、複数の視点や人によりダブルチェックをすることが大切になる。それが、事故を事件に発展させない為の基本となり、指導者同士の接し方や様子・雰囲気参加者に伝わり合意形成がなされていることが重要であり、異常事態が発生した場合にも安全な状態を維持できるようにすることが大切。

自然体験を企画するときは、事故やヒヤリハット発生防止のために、『企画書の作成↓危険予知訓練を含めた打合せ↓現地見↓当日の打合せと下見↓実施後の振り返り』が大切になる。ヒヤリハットの報告の積み上げが、結果的に組織の財産になる。独自のマニュアルは、常に改善チェ



ックして複雑にしないこと。参加者とスタッフの名簿、事故記録用紙、保険証の所持、当日の救急機関の確認、連絡通信機器の点検は必ずしておくこと。

救急用品には、水500ml(出血時等にも大事)、ポイズンリムーバ、手袋、眼鏡や服装のバリア、物理的処理の道具、ガムテープなど時期や場所によって追加するものがないか適時調べる。熱中症は6月から9月に起こりやすく、日陰で風通しのよい所で衣服を緩め、体に水をかけて団扇などで扇ぎ水分補給すること。さらに、危険な動物や虫と植物の理解と対処の方法についても教えていただきました。

最後に、乳幼児の屋外での対処について、子ども細かい気道と大きな舌・血液の量が少ない・身体に比べ頭が大きい・皮膚が薄くて皮下脂肪が少ないの代償作用は大人よりも強く働くが、急激に低下する傾向にあること。

事故発生から状況評価、自分の安全、救命(傷病者のチェック記録)、処置、情報収集と経過の把握をする。救護者の安全第一に、血液・体液、唾液、嘔吐物に触れないで対処をする。速やかな判断と的確な連絡。出来ることは応急処置をして、医療機関への輸送と意識レベルの確認をすること(出来ないことは、自分ではしないこと)を教えてくださいました。

研修2

『心根を育てる』

講師／塚本こなみ氏
(公財)浜松市花みどり振興財団理事長

日本初の女性樹木医であるご自身の経験を基に、あしかがフラワーパーク・はままつフラワーパークでの来園者との出来事等を交えながら、そこで生み出された子育て論について、多くの写真と共にお話しいただきました。

初めに手がけた大きな仕事は、栃木県足利市の大きな4本の藤の木移植でした。幹が直径1メートル、根は半径100メートルもあり、誰もが移植は無理だろうと考え、仕事を引き受ける人がいなかった仕事でした。とりかかるとやはり難航続きで、枝や幹がどんどん腐っていきました。悩み、試行錯誤する中で、先人が語った「枝葉の症状すべて根にあり」ということを改めて樹木から学びました。そし



て、根本、根気、根幹などいろんな言葉に《根》が使われているように、根がいいと木がきちんと育つという事がわかりました。

これは、子育てにもあてはまります。その根を育てるための土の環境は、家庭環境になります。その中でも、夫婦仲が良いことが一番大切です。嫌な時でも子どものために、パートナーと「おはよう」「ただいま」などの挨拶をして、必要な時はきちんと話しをする姿を見せることです。これが、社会・学校・友達との関係につながっています。

最後に、大好きな坂村真民『一本の道を』の中の《彼ら(草木)はときがくれば花を咲かせ 実をみのらせ じぶんを完成させる それにくらべて人間は 何一つしないで終わるものもある 木に学べ 草に習えと》というフレーズを紹介して講演を閉じられました。

研修3

『学校法人会計基準の改正について』

講師／古郡芳和氏

(古郡公認会計士事務所)

平成28年4月から施行される学校法人会計基準の改正についての説明を古郡

公認会計士

にしていた

だいた。今回

の改正は「私

立学校の特

性を踏まえ、

その財政基

盤の安定を

図り、私学助

成を受ける



学校法人が適正な会計処理を行うための、統一的な会計処理の基準としての学校法人会計基準の仕組みは引き続き維持する」としている。その結果、基本的に会計処理は変更されてはいない。

一方で「学校法人会計の作成する計算書類等の内容がより一般的に分かりやすく、かつ的確に学校法人の財政及び経営の状況を把握できるものとなるよう、改善・充実を図る」とした。特に「社会から一層求められている説明責任を的確に果たすことができるものとする」とし、また「学校法人の適切な経営判断に一層資するものとする」としている。このため、計算書類の様式は大きく変更されている。主な改正点は、資金収支計算書の一部変更と活動区分資金収支計算書が新設された。また消費収支計算書は、事業活動収支計算書と名称と書式が変更され、貸借対照表は一部が変更された。また、情報公開についても財務情報の書式が変更され

た。今回新設された活動区分資金収支計算書も公開の対象となった。今回の改正で経営者にとって自分の経営の良し悪しを判断しやすい計算書となったようである。煩雑な学校会計の改正点を、より解り易く説明して頂き、大きな拍手の中閉講した。

研修4

『子ども子育て支援制度と幼児教育の今後』

講師／無藤 隆氏

(白梅学園大学教授)

4月から施行した新制度や幼児教育の根本について、雑誌「発達」の概要と実例に照らしながら、無藤先生からのお話がありました。先生は、新制度が施行されるの一年目、市町村の財政状況や、乳幼児人口の分布に違いもあり、待機児童の解消を目的とした量の拡充とは裏腹に、少子化による幼児の統廃合の問題や定員割れを始める地域もあること等を取り上げられました。しかしながら、認定こども園への移行が運営上、園児を確保する基盤を築く上では有利であり、



向こう5年間のうちに幼児連携型であれ、幼稚園型であれ認定こども園に移行していくことが無難ではないかとの見解も述べられました。その上で全日本幼児教育連合会が推し進める幼児教育振興法の法制化の動きや、目的、それに伴う体制の整備や幼児教育無償化の機運も高まれば良いとのことでした。

今後認定こども園に移行した場合に、「保育」と「教育」という言葉の意味をどのように捉えていくべきかについても、富士山モデルという先生独自の構造について述べられました。幼稚園にも保育所にも略語としての「保育」及び「教育」があり、幼稚園の良さとしては、養護と教育としての「保育」をベースとしながらも、その上に成り立つ学校教育としての「教育」があること、小学校とのつながりという見地からも、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての幼児教育がある。更により専門家としての資質を高めていく研修体制においても幼稚園に一日の長があることを、保育所との対比において述べられました。保育所も幼稚園に近づいてきてはいるが、更にこれを推し進める方向で新しい制度が整備されていくことを期待したいとのことでした。



認定こども園訪問



沼津市で新制度移行第1号として幼児連携型の認可を受け、平成27年4月より新たな運営を展開している、沼津市大塚の学校法人沼津頌栄学園認定こども園しょうえい幼稚園を5月13日(水)に訪問した。お迎えお話をさせて頂いたのは、しょうえい幼稚園理事長・園長の石川望先生です。

「ようこそ!! 小さなしょうえい村へ」とオレンジ色の三角屋根の新園舎に誘われ、雰囲気のある門扉を潜ると、小高い丘やアヒルが泳ぐ小川が流れ、その先にピオトープがある。大木の周りには植栽したばかりの若木が「私たちの成長も楽しみにしててください」と言わんばかりに踊っていた。子ども達が楽しめるであろう遊具、東屋が点在している。丘には芝生がなだらかなスロープを作り、遊具などにも階段を使わずに自然な動線を大切にしていて、昭和30年頃の原因風景を夢見て設計をしたと話されていた。

★認定こども園について、いつ頃から開園の準備活動をされましたか？

沼津岳南教会が母体であるしょうえい幼稚園は平成16年から1・2歳児の保育室を開き、認可を受けずに運営をしていた経緯があった。そこで、平成24年、幼稚園理事会において、「認定こども園しょうえい幼稚園」への移行を承認。平成26年3月、新園舎の建築開始。平成27年3月31日に落成式。開園までに3年の月日をかけ、じっくりと構想を練り上げてこられた園長先生の魂が随所に感じとれた。

▼育児がつらいお母さん・お父さん来てください
▼静かに聞き、本当の心を話すということ
▼みんなの笑い声や泣く声が聞こえるということ
▼今のままの自分で「いい」と思える場所

「アトリエ」…自分を表現する時間をゆつくり過ごす空間
アトリエや園舎・園庭で大好きな「こと」や「もの」を見つけよう

「建築を準備する途中で眠れない日もありました。それでも努力して夢を実現させたい、信念で生きたい、子ども達を信じたい。確信の中で建築を進めてきました。」と語られた。

★認定こども園建設のために必要な土地の手当てや資金面はどうでしたか？

土地の確保は既にできていた。園舎園庭に關しての総工費は約3億5千万円。その内補助金は約2億円、手持ち5千万円と1億円の借入で対応した。1年目はまだ定員に欠員がある為、運営面での厳しさがある。

★認定こども園として開園して良かった事はありますか？

自由(創造)保育主体の活動をしているので、新園舎の環境は教師共々、自由に子どもの活動に対応が出来良かった。保育室が個建て空間として独立しているの

メリハリを持った遊びが楽しめている。特に絵本との関わりとして、図書室の空間遊びを充実して楽しめているのも嬉しいことの一つである。

★在園児数や職員の配置についてはどうですか？

定員は132名(3号認定…30名、2号認定…45名、1号認定…57名)、在園児数は119名(3号認定…32名、2号認定…27名、1号認定…60名)。

職員配置は9名の本務職員と15名の非常勤職員のシフト制で対応をしている。毎日の教師会は、園長・副園長・幼児部担任6名・乳児部担任1名が参加し16時30分から行う。

★困っていることはありませんか？

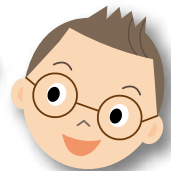
事務が煩雑になった。保護者から急な号認定変更があったり保育料の確認があったりする。幼児の欠員があるので多くの途中入園があることが望ましい。

新制度としてスタートしたばかりでしたが、終始楽しそうにお話をされていた園長先生の表情は夢に向かいながら明るく希望にあふれているように見受けられた。お忙しい中、丁寧な案内とお話をいただきとても楽しく感動的なひと時でした。心より感謝いたします。





おやこんぼ



おやこんぼ推進 プロジェクト 通信



みなさんは毎月15日前後、静岡新聞のテレビ番組ページにおやこんぼのイラストが掲載されているのをご存知ですか？

2015年5月の場合はお母さんとお弁当を持って、つつじの咲いている公園にピクニックにいった可愛いイラストです。このようにその月・シーズンにあったイラストを毎回、グラフィックデザイナーのキリマハルミ先生が考えて下さり、親子で遊べることを提案しています。

キリマ先生はおやこんぼの企画当初から、そのコンセプトに感銘を受けて、小さなイラストにまで心をこめて描いて下さっています。そのイラストを見た親子が優しい気持ちになれるように、その表情や動きに真心を籠めて描かれています。おやこんぼには悪者はいません。決まった主人公もいません。いろいろな家庭のそれぞれの様子を描き続けて下さっています。おやこんぼの世界観を真剣に考えてそのイメージをずっと崩さずに皆さんに愛情いっぱいのお生活をお過ごしように提案されているのです。

この小さなスペースの中のイラストには、必ずキリマ先生からサイドストーリーがついてきます。

例えば、2013年8月には『**ねずみのちゅーんぼ**は、**パパとキャンプ**にきました。川遊びでは危ないので、**ライフジャケット**というベストを着ました。海と違って水が冷たくて、**気持ち**



ちがよかったです』と、親子で行くキャンプを勧めたり、2014年の5月には『**今日は自然公園で、さるんぼ家族とおにごっこ**をしました。ママからは毛虫くんに注意するように言われました。緑がいっぱいの公園でおやこんぼできて楽しかったです。あれ？ちゅーんぼも来ていたようだけど**パパはどこにいるのかな？おや？さるんぼの後ろにいるのはだれかな？**』と、三家族で楽しく過ごす提案もあります。2014年の8月には『ふ

むふむ、今回もよく撮れているな。花火大会も良いけど、**今度は家族で線香花火でもしたいな。ねーママ**』と、本当に素敵なデザインでお出かけしたい気分にもさせてもらえます。

毎月このイラストとサイドストーリーは幼稚園協会

から各園にメールで配信されています。このイラスト配信を上手に利用されている園では、おやこんぼデー前日や当日にイラストを子ども達に見やすい大きさにプリントアウトして見せてあげています。子ども達に季節の遊びを教えてあげて、それを家に持ち帰るということも素晴らしい事です。他にもイラストを園バスや園の門などに掲示して、おやこんぼの日を予告する方法もあります。

なお、今回は静岡新聞にこんな記事も掲載されたので紹介します。富士市の富士第二小学校では同地区の教育会議において私立幼稚園がおやこんぼという活動をされているのを聞き、この春から第二小学校でも導入されることになりました。幼稚園だけでなく引き続き小学校でも親子の時間を大切にすることは素晴らしいですね。益々広がっていく『おやこんぼ』。皆さんで大いに盛り上げて、その結果子ども達の笑顔がドンドン増えていくようにしたいですね。

ことばの力を どう育てるか

【その1】

①世界を「ことばでわかってもらう力」

赤ちゃんの時期を過ぎて幼稚園に通う頃にもなると、子どもは身の回りのさまざまな物事に興味を持ち、この世界のことを子どもなりに「わかる」として「様子」が飛躍的に増えてきます。その一つの表れが私たちおとなへの数々の質問でしょう。「ありさん、どこ行く?」「みみず、なに飲む?」「おばあちゃん、ごはん残してる(仏壇の前で)」「どうして赤ちゃん歩かん?」…こうした答に困るような子どもの質問を、忙しい日々の中で、つい煩わしく感じる私たちですが、それはとてももったいないことです。正解なんてあるはずのない、こんな素敵な世界の謎と一緒に

解き明かす相手として光栄にも選ばれたあなた
のすべきこと―それは大人の常識やどこかで仕入れた科学的知識を「正解」として上手に説明してやることではなく、折りたたまれている子どもの想像の翼を思い切り広げてやること
かもしれません。

60歳も近づきつつある私は、さすがに自分がお兄さんに見えるとは思っていないのですが、まだ「おじさん」くらいでいたいなあ…と思っています。けれども幼稚園や保育所に行くと、子どもたちが「誰のおじいちゃん?」と聞いてくること(残念ながら)増えてきました。先生方は慌てて「おじいちゃんじゃありませんよ!」なんて言ってくださるけれど、私は子どもたちに「えっ?おじいちゃんだと思っ?おばあちゃんか

もしれないよ?」と言ったりします。おじいちゃんとおばあちゃんの区別など、とうにわかっている…と私たちは思い込んでいる4歳児でも、けっこう「あれ?おばあちゃんかも」「やっぱりおじいちゃんだろ」「いや、怪しい」と、しばらく盛り上がり上がったから面白いものです。子ども



島根大学教育学部教授
肥後 功一

リハビリテーション病院や国立特殊教育総合研究所に勤務の後、島根大学教育学部講師、助教授、心理・発達臨床講座教授、理事・副学長を経て現職

専門分野 / 教育臨床心理学・発達臨床心理学
研究テーマ / 教育(保育)におけるコミュニケーションとその障害、心理臨床相談・教育相談・発達相談の理論と方法、家庭における子どもの育ちと“ことば”の問題

大学・大学院での主な担当授業科目 / 教育臨床心理学概説、障がい児者臨床心理学特論、臨床心理査定演習など

所属学会 / 日本心理臨床学会・日本特殊教育学会





たちの「わかる」道程はまだ始まったばかりなのです。

このような「わかる」は幼児期に飛躍的に発達することばの力（言語能力）によるもので、ことばで（理屈で、頭で）世界を認識しようとする、すぐれて人間的な精神の働きです。これが中心となつて後の学習を推進してい

くものなので、学習指導要領においても子どもの「言語力」を高める指導が重要な柱として位置づけられています。また私たち人間の文明・文化は「ことばによつてしか存在し得ないもの」を創り出し、引き継いできました。たとえば、平和や愛、人権や正義、夢や理想といったもの。これらはその本質を目に見える形で「これだよ」と出して示すことが難しく、いわば「ことばの力によつて在らしめているもの」であり、ことばを共有し合える人々の間で大切に維持され、またさらなる探求が続けられてきたものです。逆に言えば、ことばの力が痩せ衰えてくると、それらは消滅の危機に直面するのではないでしょうか。

2 ことばの力の土台——「感覚や身体でわかる力」を育む幼児期

そんな大切な「ことばの力」が、この幼児期にめきめき伸びてくることは誰の目にも明らかですし、話しことばだけではなく、そのうち仮名や漢字が読める、書けるなんてことになる。私たちはもううれしくて、一生懸命に話しかけたり、絵本の読み聞かせをしたりします。さらに熱が入ると、このごろよく目にする幼児用の読み書きドリルなどを買い与えたり、日本語だけじゃなくこれからは英語を……という方向に突き進んだりするでしょう。それらは親の教育理念や方針によつて、我が子によかれと願い、子どもの適性をみながら責任をもつてされることです。その、その良し悪し（結果的に子どものためになったかどうか）は長い時間の中でしかわかりません。

ただ私がここで指摘しておきたいこと——それは、私たちおとなは「ことばをことばで育てようとする」悪い癖があるということです。私たちおとなは、つい子どもの上から「ことばのシャワー」を浴びせかけて、何でもことばで解説して「わからせよう」としてしまします。そうではなく、ことばの手前で、つまり子どもが自分の感覚器官をしっかりと働かせたり（匂いを嗅ぐ、心ゆくまで水の流れに手を触れる、口に入れたり出したりして確かめる、無言でじつと見つめる、物音にハツとした様子で耳をすませて聴こうと

する……）、身体を思う存分動かしたり（高いところにジャンプして何かを取ろうとする、砂場に手で深い穴を掘る、倒れるまでぐるぐる回りする……）することを通じて感覚や身体で「世界を知る」経験、それが「ことばの土台」を作っていきます。そのような「ことばの手前にある経験」は、ことばが育つてしまった後では、なかなかできないことでもあります。つまり物事を、実際に経験して知ることなく「頭でだけ、ことばだけでわかる」ような知り方を、あまり早期から身につけると、とりわけインターネットなどのバーチャルな情報世界が奔流となつて流れる現代社会においては、その後の「知り方」がどうしてもマニュアル的になつてしまふ危険があるでしょう。次回はその辺りをもう少し詳しく検討し、幼児期に必要な体験について考えてみましょう。





幼稚園教諭になって

学校法人千代学園
みなと幼稚園

矢部 稚菜

「せんせい」と子ども達に呼ばれるたび、幼稚園教諭になったことを実感するとともに、その喜びと責任を感じています。幼い頃から目指してきた幼稚園教諭という仕事に就くことができ、とても充実した日々を過ごしています。それは、何よりも子ども達のおかげです。子ども達の成長を間近で感じられることに、やりがいを感じるのです。

私は年少児の担任をしています。入園式で子ども達の顔を見て、1年間頑張っていこうと決意を新たに始まった4月でした。最初は「幼稚園へ行きたくない」「お母さんと離れたくない」と泣く子がたくさんいました。そこで、幼稚園が子どもにとって楽しくて、安心できる、居心地の良い場所となることを目指しました。幼稚園は先生やお友だちがいること、様々な遊びができることなどを伝え、子ども達に働き掛けていきました。入園から1か月半が経った今では、幼稚園が楽しいという声が聞けるようになりました。それだけでなく、トイレへ行けなかった子が行けるようになったり、片付けを嫌がっていた子が、自分から進んでやれるようになったり、一人遊びが主だった



た子が、お友だちに「いっしょにあそぼう」や「おもちゃを」かして」と言えるようになったりと、子ども達は日々成長しています。その成長に欠かせないのは、保育者の関わり、特に言葉であると思います。

子ども達にどうしたら言葉が届くのかと悩んでいた私に、子ども達へ掛ける言葉の選び方やタイミングの違いで、子ども達の反応が大きく変わることを見学から教えて頂きました。子どもの視覚にうつたえることや子どもの興味・関心、集中力などに配慮し、対話することによって効果的な言葉掛けとなると分かりました。

就職して1か月半が経ち、様々なことを学びました。まだまだ未熟なところばかりで、私は子ども達にとって良き先生なのだろうか、不安を感じることもあります。しかし、保護者の方の励ましの言葉や先輩方のご指導、子ども達の笑顔に支えられ、自分を奮い立たせ頑張っています。これからも多くのことを吸収し、子ども達とともに成長していきたいと思います。

幼稚園教諭になって

学校法人 川口学園
ゆきよし幼稚園

植木 明日香

私が幼稚園教諭になりたいと思ったのは、幼稚園児の時でした。大好きな担任の先生に憧れたこと、また楽しい幼稚園時代を過ごすことができたことで幼稚園が大好きになったからです。

それから自分なりに努力して大学に入り実習をするたびに保育の楽しさを感じることができるようになり、より一層幼稚園教諭になりたいという思いが強くなりました。



子ども達に幼稚園が大好き、幼稚園って楽しいと思ってもらうためには自分自身も楽しんで保育をしなければいけないと感じました。そう感じてからは、自分も子ども達に負けずに楽しもうと考えられるようになり、少しずつではありますが楽しんで保育ができるようになりました。

まだまだ失敗も多く反省も多い毎日ですが周りの先輩の先生方にたくさんの方を教え支えて頂きながら保育の仕方や子どもとの接し方を学ぶことができて、毎日充実した日々を送ることが出来ています。

私は、運動をすることが大好きなので、自分の得意なことを生かし保育に取り入れていけたら、もっともっと楽しんで保育をすることができ充実した日々を送れるのではないかと思います。まだ至らぬ点が多く失敗ばかりの私ですが、失敗を力の糧に変え精一杯努力して頑張っています。



子どもと共に：

学校法人山名学園
山名幼稚園

荒井 結里衣

昨年度、初めて年長の担任となり、心地よい緊張感と共に、小学校へ繋げる大事な1年を担うことに、果たして私にできるのだろうか…と不安になったものでした。

4月「先生！遊ぼう！」「こんなことしたいな」「先生、外で〇〇しよう！」と元気にはずむ子ども達の声に、私の気持ちはへよし！頑張るぞ！に変わりました。

少しずつクラスの様子が理解できてくると、子ども達は、自分の思いがあつてそれぞれ話しはできるのですが、みんなの中で自分の考えを言うことには少し消極的な面があると感じました。みんなの前で話しをすることに、少しでも抵抗を感じない子ども達になつてほしいと、目標も見えてきました。



容がさらに理解でき、絵を見て気持ちを感じとり、自分と重ね合わせた言葉で話せるようになり、語彙も徐々に加え、少しずつクラスの中で『話すって楽しい！』という雰囲気が生まれ始めました。子ども達が言えたことを褒め、その言葉に共感し「答えは1つじゃないんだ！」「みんな違ってみんないいんだ！」ということを繰り返して伝えました。

11月後半、年長にとつての大きな行事があり、その体験した感想を年少・年中児に話す機会がありました。すると、自分が体験して感じた事を自分の言葉で表現し話せるようになっていて、さらに誰一人同じ話をする子がなく、成長した姿に驚き、嬉しく思いました。クラスに戻った子ども達は「前の子が先に言ったから、何にしようか考えた！」「先生！みんな言えたね！」「そんな自信に満ちた笑顔にへ子ども達を信じてよかった」と1人ひとりの顔が誇らしく思えました。

今、毎日が発見と感動の連続です。5年目を迎え、『子どものありのままの言葉や姿を大切に！』を目標に、これからも子ども達からパワーをもらい、たくさん笑顔返ししながら過ごしていきたいと思えます。

子ども達の成長に立ち会う貴重な体験

学校法人篠木学園
桜ヶ丘幼稚園

杉山 千種

小さいころから憧れていた幼稚園教諭になり5年目になりました。一昨年度までは千葉県の幼稚園で3年間務め、昨年静岡に転居し、桜ヶ丘幼稚園で働きはじめました。オープンスペースの光が差し込む明るい園舎で16名の年少児と毎日楽しく過ごしています。職場が変わり、また一か必死な毎日でしたが、子ども達からももらえる元気パワーにいつも励まされています。



でやり通す姿勢がみられるようになりました。お仕事を通し、集中力が芽生え、達成感に満ちた子ども達の顔を間近で見ることができました。それだけでなく、日に日に塗り絵が上達したり、ハサミを器用に使えるようになったりと、巧緻性の発達も目を見張るものがありました。子ども達の成長に驚かされると同時に、挑戦しようという姿勢や懸命になる姿に私自身日々励まされてきました。ぐんぐん成長する姿を見る事ができるのは本当に嬉しくもあり「子ども達の成長に立ち会う貴重な体験をさせてもらっている」事に喜びを感じ「幼稚園教諭の道を選んで本当に良かった」と実感しています。

この園で出会ったのがモンテッソーリ教育です。モンテッソーリ教育は大学時代に聞いたことはあったものの、実際にモンテッソーリの「お仕事」をしている子ども達の姿を見るのは初めてでした。「子ども達もこんなに集中して物事に取り組むことができるのか！」と驚いたことを今でも覚えています。

最初はやりたいことを見つけれずにいた子どもも、一度提示すると、そのうちにやりたいことを見つけ、自分で準備し、やり始め、終わった片づけという流れを丁寧に行う姿に感心しました。また、できないことがあると、泣いたり、すぐに諦めたりしていた子どもも、担任の声かけや寄り添って見守ることで、最後まで

その反面、力不足で分からないことやどう対処したらよいかわ迷うことも多々ありますが、園長先生や先輩の先生に相談しながらよりよい保育ができるよう努めています。

転職時には幼稚園教諭を続けるか悩んだこともありましたが、かわいい子ども達に囲まれながら仕事ができることはやはり幸せなことだと感じています。今ある環境に感謝し、これからも初心と笑顔を忘れず、子ども達と共に自分自身も成長できる幼稚園教諭でありたいと思います。



最新刊

どんぐりむらのほんやさん

本の力で、子どもを元気にした本屋さんの店長さん、入院中の子を笑顔にした店員のこならう...店員くるんも、「おはなし会」で頑張ります。素敵な本がたくさん登場します。その素敵な本とお客様との出会いのために、頑張る本屋さんのお仕事を描きます。

価格：1,200円(税別) 商品コード：1020398500



第1弾 どんぐりむらのぼうし屋さん

どんぐりのぽー、ちい、くりんは、どんぐり村の帽子屋さん村では帽子が売れないので、お客さんを求めて、町へ出かけます。ある日、ねずみの親子が帽子を買ってくれ、買った帽子をどうするのかと、ぽーたちがついて行ってみると...。わくわくの結末が！



第2弾 どんぐりむらのぱんやさん

子育てしつつ、人気のぱんやさんを切り盛りするパパとママ。忙しい中にも新作開発に向けて努力するパパママと、けなげ子どもたちの姿を描く心温まるストーリー。大人気の『どんぐりむら』シリーズ第2弾は作者から働くパパママへのエールのような物語。



第3弾 どんぐりむらのおまわりさん

どんぐりむらのおまわりさんは、今日も朝から大忙し。パトロール、交通整理、木から降りられなくなった男の子・いっちの救出、まてばじいさんの失くし物の搜索...おまわりさんに憧れ、こどもおまわりさんとして頑張るいっちと、おまわりさんとの交流を描



第4弾 どんぐりむらのどんぐりえん

どんぐりむらのどんぐりえんの子もたちは近頃とてもはりきっています。もうすぐ、年に一度の園行事・お店屋さん祭りがあり、家族や村のつぶたちをお客様として招待するからです。先生たちの見守る中で、のびのび育つ子どもたちの、楽しい園生活を描きます。

価格：1,200円(税別) 商品コード：1020380300



私の『たからもの』

東海幼稚園

PTA会長 望月佑季子

皆さんにとって『たからもの』は何ですか。私のたからものは『家族』です。

私は今から12年前の夏に、3人兄弟の真ん中の姉を交通事故で亡くしました。姉はまだ私と同じ20代でした。なぜ、姉なのか。突然のこと

で私達家族は、現実を受け止めることができませんでした。

姉の手や体、顔に触れると冷たく、動かない。声も聞きたいのに話してもくれない。

もちろん笑いかけてもくれない。目の前に

横たわる姉を見て「本当に死んでしまったんだ」「現実を受け入れなきゃいけないんだ」と自分に言い

聞かせました。悔やんでも、何を言っても、大好きな姉はもう戻っては来てくれない。悲しいのは私だけじゃない、姉と関わりのある人は皆同じ気持ちなのだ。姉のことを想うと、かわいそうで残念ではありません。しかし、大好きだった姉の死は私に色々なことを気づかせてくれ、変えてくれました。

現在、私は静岡市清水区に嫁ぎ、夫と



2人の息子と義父母、祖母の7人で暮らしています。皆とても親切で、頼もしい家族に恵まれ、幸せな毎日を送っています。息子2人が仲良く笑いながら遊ぶ姿を見ると、兄弟つて本当にいいなと感じます。そういう光景を目にすると私もとても幸せな気分になり、自分の幼い頃も「こうやって兄弟で楽しく遊んでいたのかな」と考えることがあります。

かわいい子どもが授かり、自分が育てる側の人間になつた今、20代の頃にはわからなかった、娘を亡くした両親の気持ちに痛みほどわかる様になりました。どれだけ苦しかったことか。「親の気持ちは親になつてみないとわからない」と言いますが、本当にそのとおりです。

今の世の中、色々なことが起きていますが、日々成長している息子達には、今を楽しく元気に、悔いの残らないように生きてほしいです。そして、何か一つでいいから自分の『たからもの』を見つけてほしいと思います。私はこれからも『たからもの』を大切にし、今という時間を大事にしていきたいです。

甘えんこ

静岡精華幼稚園

PTA会長 鈴木友美

新緑を爽やかに吹き抜ける風が、園庭で元気いっぱい遊ぶ子ども達の頬をなでていきます。お母さんの姿を探してわんわん泣いていた可愛らしい年少さんの声も、幾分落ち着いてきたようです。その姿は何とも微笑ましく、もうしばらく見ていたいような気にもなります。優しく抱き上げ懸命にあやす先生方の眼差しもまた、私の心を温かさで満たしていきます。



舞いに来てくれました。「食べて元気出してね」と言いつつ「あーん」とかいがいしくお世話。一緒に遊びたいのだなと思い、しばらくはごっこ遊びをしていたのですが、さすがに辛くなり「ごめんね、ちょっと眠らせて」と切り上げました。すると「大丈夫？お大事にね。何かして欲しいことある？」と言うのです。私は申し訳なさとおしきとで「じゃあ抱っこして！」と起き上がりました。嬉しそうに膝に乗り、ギューツとしてくれる小さな腕。どちらが抱っこしているのかさかれていたのか、でも確実に彼女は精一杯私を抱っこしてくれているのです。なんという癒しの力でしょう。本当にスーッと痛みが引いていくような、穏やかな優しい気持ちに包まれていました。

思春期にさしかかる長女、そして5年生になる長男も、まだまだ甘えたい気持ちは見えるものの、照れが邪魔をしてすっかり抱っこをすることはなくなりました。もちろん、大きくなるにつれそれは普通のことではありますが、まだ手の届くうちにもっともつとスキンシップしておきたい、あなただちが大好きという気持ちを伝えたい、と思った出来事でした。

「連日家族で遠出をしても有意義に楽しい連休を過ごしました」とそこまでは良かったのですが、やはり体は正直なもので疲れと無理がたたつたのでしょう。週末、ひどい頭痛に襲われ、ぐったりと横になったまま休んでしまいました。年長になる我が家の3番目の娘が、枕元におままごとのごちそうを持ってお見

教員養成校訪問 東海大学短期大学部

平成27年4月27日(月)午後4時過
静岡市葵区宮前町にある東海大学短
期大学部に広報委員会関係者5名、委
員の私立幼稚園で働く卒業生1名とで
訪問致しました。

東海大学短期大学部からは児童教育
学科の学生10名と教員4名が参加して
くださいました。

まず、参加者の学生に大学への通学
方法を一人ひとり訪ねました。10人の
うち下宿生は1人で、ほとんどの学生
は実家から通学、通学時間は30分〜40
分ほど通えると言う事でした。中には
自宅から1時間40分もかけ県外から
通学しているという学生もいました。

次に、なぜこの大学を選んだのかを
尋ねると、ほとんどの学生は「オープン
キャンパスで先生方の対応がとても



優しくて親近
感があったた
め」と答えて
くれました。
他に「先輩達
が親切でアッ
トホームな雰
囲気だったか
ら」また「幼
稚園教諭・保
育士・小学校
教諭この3つ
の資格が取れ

ることが魅力的だった」
等でした。

次に、卒業生で私立
幼稚園に就職5年目の
西ヶ谷先生から話を伺
いました。

同校を選んだ理由は
「他の短大と悩んでいた
が同校の学園祭に参加
して、先輩がたくさん
声をかけてくれたのが
印象的で、先輩がやっ
てくれた手遊び、人形
劇等がまるで本物の保
育士のように、自分も
先輩のようになりたい
と思ったから」との事
でした。

その後、就職を考えたきっかけは、「短
大1年の夏頃から母園の幼稚園に訪問
し夏祭りや、行事に参加しているうち
に、幼稚園の先生になりたいという思
いが強くなり、また鼓笛隊をやってい
る幼稚園で、自分もそれが好きでやり
たいと強く思い就職を考えました。

就職すると、すぐに先生と呼ばれる
ようになり、学んだ事はなかなか思っ
ようにならず、自分には向いていない
と思う事もあったが、先輩の先生方が
優しく、時には厳しく指導してくださ
ったお蔭でそこから乗り越えることが出



来た。2年目以降はだいぶ見通
しが立ち、自分で何とかやれる
ようになっていき、今こうして
頑張っている」との事でした。
先輩として一言「学生時代の
提出物は期限を守ってきちんと
出す事、それが今後就職してか
ら、約束を守ると言う事にも繋
がりとても大切な事になるか
ら」と素敵なメッセージを送り
ました。

次に、広報委員より私立幼稚
園について学生にわかりやすく
説明し、私立幼稚園は特色のあ
る幼稚園が多く、保護者は幼稚
園をどこに自分の子どもを入れ
ようか、選んで
入園してくる事
等、保護者の目
線でも公立との
違いがある事を
伝えました。また幼稚
園と保育園の違いや園
での子ども達の様子に
も触れてみました。

そこで、広報委員の
目的である「私立幼稚
園のアピールを兼ねて
是非幼稚園に足を運ん
でほしい」と伝えまし
た。例えば「保育時間
が終わってからの職員
室訪問や、教員・主任・
副園長等の雰囲気など



も参考に働きたい幼稚園を見つけく
ださい」と話しました。
そこで学生から「園はいつでも見
に行つていいですか?」「ご迷惑になら
ないでしょうか?」などの質問がまし
た。

広報委員から、訪問したい旨をしつ
かりと電話で伝えれば園は受け入れて
くれることを伝え、また協会からもど
この園も受け入れるように伝達するこ
とを約束しました。

最後に今後の就職希望先等を学生一
人ひとりに伺ってみると「初めから私
立幼稚園就職を考えていた方は1名で、
ほとんどの学生が公立を視野に入れて
いる」との事でした。今回の訪問で、
私立幼稚園も視野に入
れていきたいと考え方
を広げた学生が何人か
現れた事で、この訪問
がとても有意義な事に
なつたと確認しました。

最後に同校先輩の西ヶ
谷先生から学生たちに
「ぜひ幼稚園の先生に
なつて頑張ってください
い」と激励の言葉を述
べ話し合いは幕を閉じ
ました。

最後にお忙しい中お
話を聞かせて頂いた学
生のみなさん、また参
加して下さいた教員の
皆様に感謝申し上げ同
校を後にいたしました。



子育てカウンセラー 高野桂実

はじめに

人間の子どもは、本当に未熟な存在です。動物は産まれてすぐに自力で立つことができますが、人間の子どもは自力で歩くのに1年近く、言葉を使つて意思を伝えるのも1年以上かかります。「生理的早産」と言うそうですが、動物のように天敵がいな

い人間の子どもは、ゆつくりじっくりと時間をかけて、少しずつ成長していきます。そして日々の生活を通して積んでいく様々な経験が、人としての理性やコミュニケーションの力、社会的ルール、そして人への信頼感を作るのだと思います。親と育む温かい世界、同世代が集まる小さな社会、どちらの経験も子どもにとつてとても大切です。そんな「子ども時代」の中で、私が大事だと思

うことを二つ挙げてみたいと思います。

ある幼稚園での出来事です。卒園を間近に控えた年長の女の子が、先生たちに手紙を渡していました。「卒園しても○○のこ

と忘れないでね」と言つて手紙を渡された先生が「忘れるわけないよ!」だつて先生、○○ちゃんのこと大好きだもん」と言つて、女の子をぎゅつと抱きしめていました。何という温かなやり取りかと、胸が熱くなりました。あ

の子はきつとこの先も、学校の先生を信頼し、周りの人を大切にしながら生きていくことができ

ると思ひました。

幼児期に大切なことは、親以外の大人や子ども達との間に作る初めての人間関係を「良いものだ」と認識することだと思ひ

ます。これから長く続く人間社会の中で、人との関係が良いものでないと、多くの困難に立ち向

なつてしまいます。近年、インターネットやSNSなどのメ

ディアの普及で、人間同士、生身のコミュニケーションがどんどん希薄になっているように思ひま

すが、それらの表面的なやり取りが全てではなく、本当につな

がった人間同士であれば、トラブルなど起こらないように思ひます。

また、発達に難しさを抱えた子ども達についての相談を受ける機会も年々多くなっているように思ひます。こだわりがあつて

どうしても冷静になれない子、何度言われても「ついつい」やらかしてしまう子。現場の先生方

も親御さんも、どうしたら良いのかと頭を抱えてしまつてい

るケースもあります。こんな時に必要となつてくるのは、視点の転換です。大人にとつて「困つた子」と

は、本当は子ども自身が「困つて

いる」のではないかと考えてみてはどうでしょうか。

「ここまでやらせたい」という大人の意図が中々うまくいかな

い時は「どこまでならでるだろう」と考えてみると、やり方が見えてきます。言葉を獲得した子

どもは、つたない言葉でも「どう

したいのか」「何がイヤなのか」を言うことができます。そんな子どもの言葉を受け止め、その子が今出来ることを一つ一つクリアしていくこと、それができたら

切です。ひと通りのことが出来る大人は、ついつい子どもに対しての要求が多くなつてしまひます。

どうしても思ひます。どうして

どうして思ひます。こだわりがあつてどうしても冷静になれない子、

何度言われても「ついつい」やらかしてしまう子。現場の先生方も親御さんも、どうしたら良いのかと頭を抱えてしまつてい

るケースもあります。こんな時に必要となつてくるのは、視点の転換です。大人にとつて「困つた子」と

は、本当は子ども自身が「困つて

いる」のではないかと考えてみてはどうでしょうか。

「ここまでやらせたい」という大人の意図が中々うまくいかな

い時は「どこまでならでるだろう」と考えてみると、やり方が見えてきます。言葉を獲得した子

どもは、つたない言葉でも「どう

したいのか」「何がイヤなのか」を言うことができます。そんな子どもの言葉を受け止め、その子が今出来ることを一つ一つクリアしていくこと、それができたら

切です。ひと通りのことが出来る大人は、ついつい子どもに対しての要求が多くなつてしまひます。

どうしても思ひます。どうして

どうして思ひます。こだわりがあつてどうしても冷静になれない子、

何度言われても「ついつい」やらかしてしまう子。現場の先生方も親御さんも、どうしたら良いのかと頭を抱えてしまつてい

るケースもあります。こんな時に必要となつてくるのは、視点の転換です。大人にとつて「困つた子」と

は、本当は子ども自身が「困つて

いる」のではないかと考えてみてはどうでしょうか。

「ここまでやらせたい」という大人の意図が中々うまくいかな

い時は「どこまでならでるだろう」と考えてみると、やり方が見えてきます。言葉を獲得した子

どもは、つたない言葉でも「どう

したいのか」「何がイヤなのか」を言うことができます。そんな子どもの言葉を受け止め、その子が今出来ることを一つ一つクリアしていくこと、それができたら

切です。ひと通りのことが出来る大人は、ついつい子どもに対しての要求が多くなつてしまひます。

どうしても思ひます。どうして

どうして思ひます。こだわりがあつてどうしても冷静になれない子、

何度言われても「ついつい」やらかしてしまう子。現場の先生方も親御さんも、どうしたら良いのかと頭を抱えてしまつてい

るケースもあります。こんな時に必要となつてくるのは、視点の転換です。大人にとつて「困つた子」と

は、本当は子ども自身が「困つて

いる」のではないかと考えてみてはどうでしょうか。

「ここまでやらせたい」という大人の意図が中々うまくいかな

い時は「どこまでならでるだろう」と考えてみると、やり方が見えてきます。言葉を獲得した子

どもは、つたない言葉でも「どう

したいのか」「何がイヤなのか」を言うことができます。そんな子どもの言葉を受け止め、その子が今出来ることを一つ一つクリアしていくこと、それができたら

切です。ひと通りのことが出来る大人は、ついつい子どもに対しての要求が多くなつてしまひます。

どうしても思ひます。どうして

どうして思ひます。こだわりがあつてどうしても冷静になれない子、

何度言われても「ついつい」やらかしてしまう子。現場の先生方も親御さんも、どうしたら良いのかと頭を抱えてしまつてい

るケースもあります。こんな時に必要となつてくるのは、視点の転換です。大人にとつて「困つた子」と

は、本当は子ども自身が「困つて

いる」のではないかと考えてみてはどうでしょうか。

「ここまでやらせたい」という大人の意図が中々うまくいかな

い時は「どこまでならでるだろう」と考えてみると、やり方が見えてきます。言葉を獲得した子

どもは、つたない言葉でも「どう

したいのか」「何がイヤなのか」を言うことができます。そんな子どもの言葉を受け止め、その子が今出来ることを一つ一つクリアしていくこと、それができたら

ナイスショット

静私幼だより

NO.174

2015.07.15



どう?みて、みて



消防車とバチリ!!泥んこあそび楽しい!



プールだ〜いすき。



わー、ふくれまった!



ジャガイモ 掘れたよ!



なんだかたんぽぽおいしそう



おいしくな〜れ!梅ジュース



浮き輪でフカフカ楽しいね!



ヤッホー!!高いところは気持ちいいよ!



もっともっとおおきいのをつくらぞ!

【編集後記】

雨降りや日差しの暑さがあろうと、夢みる子ども達にとっては願い事を短冊に託し、笹飾りを楽しむ季節です。どんな時でもこの笑顔を励みに幼稚園では毎日こどもと向き合い、先生方は力を出しきっています。平成27年度から子ども・子育て支援新制度が始まりました。子ども達の成長を見守り、子育てを支える温かい環境をと、

熟慮を重ねた認定こども園を訪問させていただき紹介をしました。静岡県では今年度34園が認定こども園に移行しました。これからは、各地域で今後の社会情勢を上手に見据え、より良い幼児の教育・保育の環境の整え方を展開していくことでしょう。

広報委員/認定こども園ピーターパン幼稚園 宮澤幸子

(表紙写真/龍の子幼稚園)

発行人/相田 芳久
編集人/陸光寺 明
広報委員会

発行所/静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私学会館内
TEL:054(254)6820-FAX:(255)3694

http://www.shizushiyu.or.jp/
E mail: office@shizushiyu.or.jp
印刷/(株)三創 レイアウト/イラスト/村松麗子



このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。